〔和漢三才圖會八十四灌木〕蜀茶　今云加良豆波木　蜀今四川之地、出於此者皆佳、如蜀椒蜀葵皆佳種也、

按、倭有唐海石榴者、樹相似而葉狹長、色淡不澤、葉紋縱横細似甃狀、其花重瓣大而正紅如牡丹、所謂蜀茶是也、但枝朶柔韌、葉亦不多而大木希也、

〔地錦抄附錄三〕朝鮮椿　花大輪也、葩厚くゑまり、本紅の色よく、唐椿のごとくなり、ひとへにて蘂さゞんくわのごとく、花の内一はいにあり、葉も大く手づよし、花おそ咲、つねの椿落花の後ひらく、花形色あひ極上上、

〔地錦抄附錄三〕阿蘭陀白椿　花小りん、白やゑなり、はなの中ほどひくゝかさねてひらく、

〔日本書紀二十天武九〕十三年三月庚寅吉野人宇閉直弓貢白海石榴、

〔義演准后日記〕慶長八年二月二十一日、白椿ホリテ將軍へ令進之了、

〔清水物語上〕此比○寛永十五年椿の花のはやるやうに付ても、聞もをよばぬ見事なる花あまたあなたこなたより出たり、このむ人ありてはやり候はゞおもしろき物もありなんかし、

〔羅山文集四十九序〕百椿圖序寛永十二年作

夫椿之有名也、稱于莊子、載於本草、倭名謂之都婆岐、或號海石榴、本朝先輩賦白椿云、靈根保壽託南華、花發金仙玉府家、素質宛糊氷雪面、不隨紅艶作山花、山茶花有數種、或花簇如珠、或青蕚或粉紅、或淡白、所謂寶珠茶花、海石榴茶花、躑躅茶花、一捻紅、千葉紅、千葉白之類、不可勝數也、椿花亦然、倭歌家有玉椿、有白玉椿、有紅椿、有青椿、有濱椿、有山椿、兵部少輔大伴家持植八峯之椿、發其花於詞林、其後諷人韻士歷代吟賞焉、故賀紫宸則鏡山之玉椿、明照四海之天、祝綠洞則姑射之靈椿、永待千世之春、巨勢春野之霞色見之不飽、音羽山岩之雲根生而有常、以之敬神則勢州有椿宮社、以之勸學則宋帝比木有椿、誠是木部之大年、花中之巨麗者也、頃歲椿花衆品佳色不一、乃知太平之時萬物蕃多矣、況

椿觀賞